



# 40億歳のあなたへ

6月26日、国立教育政策研究所の追跡調査で、中学校の3年間で仲間外れ、陰口などのいじめに遭った子どもと、いじめ側に戻った子どもがいずれも8割を超えていることが公表されました。だれでも、被害者にも加害者にもなりうるということが裏付けられたとしています。

さて、平成18年は、いじめによる自殺が相次ぎ、一つしかない命の重みや命の大切さを痛感させられる一年となり、「今年の漢字」にも『命』が選ばれました。当時、自殺予告の手紙が出回ったことを受けて、「なくせいじめ自殺～私のメッセージ～」 「いじめられている君へ」 「いじている君へ」 など、次のような内容の新聞記事が数多く掲載されました。（下線は筆者）

- ◆ 最初から間違った子どもは一人もいない。生まれたときは正義感を持っているのに、大人社会を見ながら「いじめてもいいもんだ」と大人が教えてしまっている。競争社会の中で、子どもに「頑張れ」と言うが、「人として他人の命を軽んじてはいけない」という当たり前のことを教えてこなかったのではないかな。  
【長野県教育委員会課長：前島章良】
- ◆ 狭い空間に押し込められると鳥でも突き合いをする。子どもたちは見えない壁に囲まれている。でも、生きていくと、自分を困っていた壁がいつの間にか扉になって向こう側が開くんだ、出口があるんだとわかる経験がきつとある。  
【作家：あさのあつこ】
- ◆ この世の中は、あなたが思うよりずっと広いのです。あなたが安心して生活できる場所が絶対にあります。  
【劇作家：鴻池尚史】
- ◆ ひどいことをしているとき、心から楽しいと思っている人はいません。君が、だれかをいじているとしたら、どこかで、そんな自分を嫌だと思っていることでしょう。その気持ちにふたをして毎日を過ごしているのだと思う。君には、勇気を持ってそのふたをあけてほしい。ひどいことをするのは嫌だと感じている君は、とてもかっこいいと思います。  
【演出家：宮本亜門】
- ◆ 理由が何であれ、人として卑怯なことをしてはいけません。卑怯とは、勇気がなく、物事に正面から取り組もうとしないことを言います。そう、正々堂々としていないことです。  
スポーツや世の中にはルールがあります。卑怯な行為は反則です。当然、その卑怯な行為の中には「無関心」も含まれます。あなたの周りにいじめられている人がいるならば、是非勇気を持って「いじめはよくない！」という声をあげてほしい。その勇気あるあなたの最初の声が必要ですや「周りの人の心を動かす」と僕は信じます。  
【プロ野球選手：松井秀喜】

7月1日、「いのちのせんせい」の講演会があります。テストが終わったこの日、奇跡的に生まれた命、たった一つしかない命、やり直しのきかない命の大切さについてじっくりと考えてみましょう。

君は、君の本当の年齢を知っているだろうか。君が何歳か知らないが、君は君の知っている年齢ではない。君の命の本当の年齢は40億歳だ。

地球が誕生して45億年。君の命は40億年前にこの地球に生まれた。君の命は気の遠くなるような長い年月の中で「ただの一度」も途絶えることなく続いて君にいたった。考えてみてほしい。40億年という時間を生き抜くことが、どれほど困難でどれほど貴重なことか。今ある君の命は連綿と続く40億年の生命の証明だ。

人生に生きる価値なしというのは簡単だ。次の世界を信じて死に旅立つのもたやすい。しかし、それは君に続くすべての命、君から続くすべての命を奪うことになる。一体だれが、40億年の歴史を見回して、君の命の価値を決められるだろう。今の社会の価値観がいつまでも続くはずもない。10年後も、来年も、明日さえ分かりはしない。その時、君が、君の子孫が世界を救うかもしれない。しかし、いま自ら命を絶てば、すべての可能性は消える。

人は人生の中で何度も絶望と友達になる。そんな時は「ただの一度も」途絶えることなく君に続いた数限りない命の勇気を感じよう。君の体には40億年を生き抜いた生命の勇気が宿っているはずだ。それを感じよう。  
（四国新聞「一日一言」より抜粋）

## ◆◆◆◆◆お知らせ◆◆◆◆◆

今週1週間、瀬戸内短期大学の山本由季さん、藤岡英理さん、假屋枝里さんの3名が集団給食実習を行います。給食の時間に1年生の教室に入ることになります。よろしくお願いいたします。